

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	中央大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	チュウオウダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	東京都
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	専門インターンシップ
	学部・研究科等名	全学連携教育機構
	担当教職員名・役職	武石 智香子・商学部教授
受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	1	
受入企業等数	1	
受入企業等名	<a href="http://www.chuo-u.ac.jp/aboutus/gp/collaborate/program/global_leap/professional_internships/">http://www.chuo-u.ac.jp/aboutus/gp/collaborate/program/global_leap/professional_internships/</a>	
インターンシップの分類	3.海外インターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9. 中小企業でのインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	学生の専門分野・進路・自己設定目標により、業務内容を設定してもらった。平成29年度の場合、法学部の学生が、東南アジアで働く進路を希望し、法律事務所における海外進出企業へのコンサルを学ぶという目標を持って、カンボジアの法律事務所で業務を体験した。	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年次～4年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	1単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	学部横断型の全学的プログラムGlobal LEAP の1科目として、海外留学中に実施する。長期留学中なので、授業期間中に定期的にインターンシップをしても、休業期間中に集中的にインターンシップをしても良い制度になっている。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	国外におけるインターンシップのため、教員による期間中のモニタリングは難しいが、教員はSNS上で学生とつながり、活動の把握に努めた。

	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	事前学習は、キャンパスにて2コマ以上実施している。期待される教育効果、渡航先の国の生活情報、受入企業の情報、自己設定目標等を確認した。インターンシップ先は学生が個人で自ら探した方が良いとの平成29年度の学生からのフィードバックにより、平成30年度からその点を改善した。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	レポート形式またはプレゼン形式から学生が選択した形で報告書を提出する。教員が学生からフィードバックを直接聞くための1コマ分の事後学習を行う。平成29年度においてはレポート形式の報告が提出された。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	SNSを通じて教員が長期留学中の学生と連絡をとっていた。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	平成29年度においては、学生はルーブリックの内容を共有したが、受入先企業による評価結果は共有しなかった。平成30年度以降は、評価結果も共有する予定である。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	4.その他
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	Global LEAP プログラムでは、長期留学中に30時間(例:1日3時間×週5日×2週間)のインターンシップを行うことになっているが、連続して行っても、週1日など定期的に行っても構わない。
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	平成29年度においては、学生は約2ヶ月間、週1で法律事務所におけるインターンシップを行った。勤務時間は平均7時間程度(午前8時から午後5時まで)で、主な仕事内容は、The Phnom Penh Post やKhmer Times、The New York Times などオンラインニュースでカンボジアの法令やビジネスに関する記事を読み、記事に要約してFacebookに投稿することであった。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ受入先には、覚書を交わす際に、あらかじめ達成目標であるルーブリックを渡す。インターンシップ期間終了時に、同ルーブリックで学生の達成度を評価してもらい、それが科目の成績の60%を構成する。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="http://www.chuo-u.ac.jp/aboutus/gp/collaborate/program/global_leap/professional_internships/">http://www.chuo-u.ac.jp/aboutus/gp/collaborate/program/global_leap/professional_internships/</a>
問い合わせ先	大学等名	中央大学
	担当部署名	全学連携教育機構事務室
	担当者役職名	副課長
	担当者氏名	芦川 洋一
	電話番号	042-674-3669
	メールアドレス	ashikawa@tamajs.chuo-u.ac.jp